



淫呪の肉塊 原始ノ大密林、他数か所で発見

繁殖のために群れを成した触手型の魔物の集合体。
普段は擬態して樹海に潜んでいるため、発見事例は非常に少ない。同種間での生殖手段を有しておらず、稀に現れる苗床に最適な異種族の雌を暗闇から見定め、不意打ちで襲いかかる。



集合体でも戦闘能力はさほどでもないため、頭数を犠牲に獲物に呪いを蓄積させ、弱らせる。この呪いは蓄積量によって効果が異なり、1段階目は筋力の弛緩と発情作用が主な影響である。これが定着するころには対象の下腹部に淫紋が表出し、獲物の無力化と交尾開始の準備が完了した合図となる。





戦闘時と比べ、密着での交尾中は呪いの侵蝕が格段に速くなる。
2段階目までの蓄積では膣と胸を中心に全身の感覚が蝕まれ、性感度の上昇と快楽抵抗の低下が徐々に進んでいくとともに、呪いの蓄積自体に快感を覚えるようになり、段階の進行時には強烈な刺激に襲われる。



2段階目が定着するころには感度は通常の数十倍になっており、この段階まで進行すると解呪を行ったとしても後の生活に支障をきたす場合が多い。
定着後、無理やり与えた唐突な快樂で雌を翻弄したまま、交尾は最終段階に移行する。



動き、速くっ!?

んぐっ
あああっ

今、んたっ
ぱりだっ...

激しくされると...
ダメっ

あぁ

びん

んぐ...
まだ連続で...
ん、ちん



射精を引き金に淫紋は3段階目に進行する。
効果は排卵の強制であり、ここまで進行してしまうと現状の技術では解呪は不可能となる。







何匹も...
何匹も...

うっ...
うっ...

うっ...
うっ...

うっ...
うっ...

うっ...
うっ...



出産が終わった直後、間髪を入れず次の種付けが始まる。
限界まで侵蝕した淫紋には交尾～出産のサイクルの度にその周期を短くする効果があり、生殖は加速していく。淫呪の肉塊に選ばれた花嫁としての生活はまだ開始したばかりである。



出産後しばらくは幼体からも、栄養供給源や呪いの受け皿として利用され続ける。
その後、一集合体を築ける数が成長しきると、別の苗床を探すため、迷宮の奥へと巣立っていく。



しかし、苗床に適した番が見つかることは非常に稀であるため、元の集合体から解放されることはない。一度この魔物の苗床に墮とされた冒険者が、この淫獄から抜け出すことは絶対に不可能であり、苗床嫁としてこの魔物に生涯を捧げることとなる。



END